

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アバンツアーレスポーツもりおか（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	令和8年1月15日		～	令和8年2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○従業者評価実施期間	令和8年1月25日		～	令和8年2月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数)	12
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月2日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・サッカー支援プログラムがあり、運動療育に特化している ・サッカー支援に参加できない利用者にはバドミントン（ボール運動）をプログラムに取り入れている。	・従業員研修が定期的に行われており、統一されたプログラムを行っている。	・定期的な研修をしていく。 ・マニュアルを整備し、新入社員でも運動療育の知識を習得できるようにしていく。
2	・定期的に会報誌やSNSで利用者さんの活動の様子を発信している。	・普段、見られない活動の様子を定期的に発信している。 ・当事業所だけでなく、全国のアバンツアーレスポーツの活動を回覧できるようにしている。	・保護者からの意見も参考にし、イベント等に取り組み、発信していく。 ・地域との交流等を図り、身近なところへの情報も発信していく。
3	・保護者とのコミュニケーションが円滑にできており、信頼関係が構築されている。	送迎時や連絡帳にて情報共有をしている。電話での相談も随時受け付けており、早急な対応を心掛けている。	・保護者の不安を軽減するためにもイベントを通して、保護者同士のコミュニティの充実を図っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や地域の中で他の子どもと活動する機会がほとんどない。	・交流イベントがない。	・交流イベントとして園に出向いて、サッカー支援プログラムやバドミントンを通常発達の子も一緒にできるように企画していく。
2	・体育館の予約が取れなかった雨天時だった場合、活動スペースが狭くなってしまう。	・活発な利用者が多く、活動範囲が広い。	・パーティションで区切ったり、知育遊びの幅を広げる。
3	・生活空間は清潔で心地よく過ごせる環境になっているが、支援室からトイレの中が見える構造になっている。	・構造上の問題。	・トイレと支援室の間にのれんなどをかける等対策をしていく。